

えんぽとたんぽの始発駅 里山ビオトープ二俣瀬	会 報 第 61 号	2006年8月23日 里山ビオトープ二俣瀬をつくる会 編集責任者：西原 一誠
---------------------------	---	--

1. 活動報告（事務局 記）

- 8月6日（日）蕎麦田の草刈 草の処分は追って行なう。水田周りの草刈、東屋周りの草刈等々行ないました。暑い中16名の参加で手際よく活動を実施しました。
※ 蕎麦田の南側の湿気部にマムシ発見そのまま逃がしましたが要注意！
- 8月11日（日）宇部市環境部、宇部健康福祉センター主催「親子水辺の教室」でのビオトープ周辺のご案内をしました。須賀河内川の魚獲りを子ども達は大変喜びました。（案内は田村副会長、吉富匡会員、藤村会員と原田マでした。）
- 8月16日（水）蕎麦田の準備で刈取の草焼却と荒起こし、整地をしました。（吉富匡。原田マ）
- 8月19日（土）午後の里山自然観察隊は川の探検でしたが台風10号の影響で増水と濁りのため中止となりました。初めての経験を予定していましたが、残念でした。

2. 今後の予定（事務局 記）

- ◎ 見学者
 - 4月より ネイチャークラブが毎月ビオトープで散策活動をされます。岡田さんより（案内者不要です。）
- ◎ 行事
 - 8月26日（第四土曜日）活動日変更 蕎麦の播種と案山子の製作
 - 9月3日（第一日曜日）の活動（従来の活動）
 - 9月16日（第三土曜日）の活動（従来の活動）
午後は里山自然観察隊の第6回目の観察活動（昆虫で秋の鳴く虫）

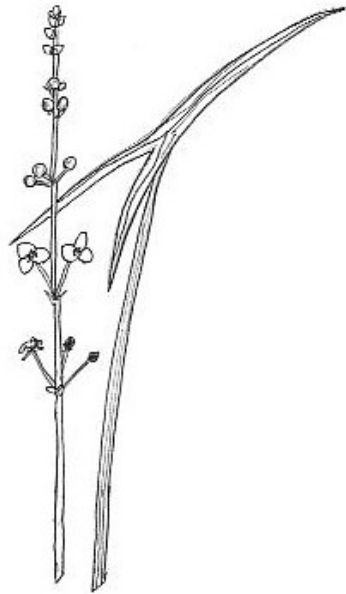
3. ビオトープ関連（ビオトープ周辺の植物） 美濃和 信孝

アギナシとヘラオモダカ

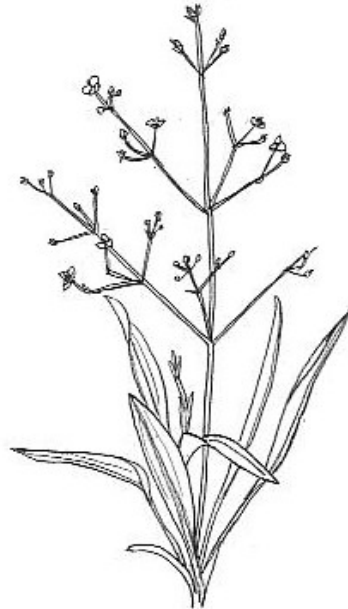
アギナシは、オモダカに似た矢尻型の葉をつける多年生の水草です。オモダカとは、葉が細いこと、葉先がオモダカほど尖っていないことが一般的な識別ポイントですが、オモダカは葉の形の変異が大きいので、実のところ、葉を見ただけでは区別は難しいといえます。中国原産のクワイの芋を連想していただければわかるように、オモダカは塊茎がランナーの先にできるのに対し、アギナシは秋にできるムカゴ状の塊茎が株元くっついていくかどうか最終的な識別点です。アギとはアゴの古名で、若い葉の基部が裂けないことから「顎無し」という意味です。オモダカは面高」という意味ですから、オモダカ類のこの特徴的な葉が人面を連想させるのでしょう、両方ともに顔に関した名前になっているところに妙を感じます。花は3個ずつ、数段輪生し、夏から秋にかけて下から順次咲いていきます。アギナシは、環境省レッドデータブックでは準絶滅危惧種で、栃木、愛知、岐阜、福井など各県でも絶滅危惧種に指定されていますが、山口県では比較的多く見られるためか、指定されていません。アギナシはオモダカとは違って、比較的自然度の高い湿地に生育し、水田などにはあまり入りこまないといえます。ビオトープでは湿地や止水池、蓮他など、あちこちに花が咲いているのが見られます。ビオトープの自然度の高さを物語るものでしょう。

ヘラオモダカは、葉がヘラ状をしたオモダカの仲間です。これに似た種類にスプーン状の葉をし

たサジオモダカという種類があります。しかし、サジオモダカは北海道など北国が分布の中心で、西日本には分布しないので、へら型の葉を付けて白い小花を付ける水草があれば、それはへらオモダカだと思ってまちがいありません。サジオモダカの塊茎を乾燥したものは沢瀉(たくしゃ)といい、漢方で利尿薬等に用いられるそうですが、このへらオモダカは薬にはならないそうです。へらオモダカの花径は高さ1mくらいも伸びて、3回ずつ何回も分岐して5mmほどの小さい白い花をたくさん付けます。種子でもよく増えるので水田の強害草になっています。ビオトープの湿地でも毎年新しい株が次々に発生しています。2年目には引っこ抜くのに苦労するほど大株に育つので早めにコントロールすべき水草の一つです。



アギナシ (オモダカ科)



へらオモダカ (オモダカ科)

4. ビオトープ関連 (会員の声)

事務局代理お疲れ様? (若林 記)

毎日暑い日が続きます、今年は特に熱いように思います。地球温暖化の影響なのでしょう。か? 何処かの学者が、「地球は氷河期に向かっている」って言ってたのを思い出しました。まるで、信用ならんと思いながら、毎日ビールの量は増える一方です。

そんな私も、今回、事務局代理に指名され、マイペースで参加してきた、会の活動でしたが・・・突然の、地震? いやいや津波のような仕事量です、おまけに、このくそ暑さ、しかも何故か忙しい仕事とで頭の切り替えが上手く行きません。(毎年、この季節は、仕事量が少ないのですが・・・)

そんな中、会以外の会議にも数回参加、知った顔もあり、昔話に盛り上がったり、地球温暖化対策ネットワーク総会では、活動報告を行い、良い経験になりました?

私が、事務局代理を行っている間、毎月の活動以外にも講師、作業等で参加下さった多くの会員の皆様大変助かりました、その時、私からの連絡の不備等あったと思います、ここでお詫びを申し上げます。

これからも続く、ビオトープの活動、原田事務局、西原さんのバックアップを全員で行う事が、とても大切だと思います。

(最後に会員の声は、順番を決めた方が良いでしょう)

次回 会員 藤村さんをお願いします。

5. 里山自然観察隊（8月19日）

川の探検（キャンプ）

今回の里山自然観察隊は台風10号による雨と厚東川増水につき中止いたしました。

（若林 正治 記）

今回の中止非常に残念です。ウナギ籠を買う時、ガストーチのガスボンベを買う時、はえ縄漁の針を取り付ける時、それぞれの準備する時胸がわくわくしたものです。小学校の時代、父親とまた二人の兄達と当時は石油を燃料に麦わらと竹で作ったトーチをかざし、木田橋下で「ようぼり漁」を度々したことを思い出しました。

この伝統を次の世代へ教えておければ幸せと、思っています。次の機会に期待したいものです。

（原田満洲夫 記）

6. 来訪者の声（東屋のノートより一部抜粋）

—8月4日 福岡から来たけど何にも楽しい事が無かった。滝があつてきれいで川遊びが出来ると思ったけど全くダメ！ もっときれいにしてお客さん入れたいんだったら！

※ こんな書き込みを入れるのがいるのが残念です。自然のよさを知らないのでしょうか？の意見記載あり

—8月20日小野湖清掃の帰りによりました。宇部山巡クラブ 5名（男1女4名）年齢内緒
睡蓮はきれいでしたが、蓮の花が咲いてなくて残念！ 弁当が無かったので次回は持つてくると良かったと思いました。

7. 会よりの連絡事項

1) 退会者のお知らせ

塩谷哲行会員、西山壮一会員、今井 剛会員、後藤益滋会員、深田三夫会員、早川誠而会員
長岡俊三会員、井上倫道会員、以上8名です。いずれも立上げ時には活躍された方や新規入会されました会員でしたが、2年間以上の参加がありませんし、会費未納のため総会規定で退会手続きをとらせていただきました。したがって8月末の会員数は65名です。

※活動日の出席率が低迷していますが、社会保険庁マガイの、出席率の悪い（0回）を省略すれば出席率は上昇する事間違いありませんが、何とか誘い合わせて参集して、出席率を上げることが基本ではないでしょうか。

2) やまぐち県民活動きらめき財団から18年度から20年度の3年間毎年20万円の助成金
が下りる事になりました。申請は主に岡村智法会員に努力いただきました。別紙計画書を会員各位が熟読されて意義のある里山の保全に使わせていただきたいと思います。

8. 編集後記

夜の厚東川観察は台風で流れてしまいました。楽しみにしていた子供たちは残念だったことでしょう（実際は、大人たちの方がもっと残念だったと思いますが）。

山口県では、それほど大雨にもならず、梅雨明け以降の干天に慈雨となったところも多かったのではないのでしょうか。九州などでは、大雨による被害がでていますので、素直に喜ぶこともできません。

ところで、最近、なんか変だなと思うことがたくさんあります。まず、梅雨、蛇の目でお迎えなん

てとても無理です。30年前には、山口県ではほとんどみることもできなかった蝶が今では普通に見られます。冬も暖かい年が多くなっています。

先日、NHKで地球温暖化による影響の番組があり、その中で、南方系の蝶が北上している様子や、大雪が降らないため、鹿が異常に繁殖し、そのため、尾瀬の自然が破壊されている様子、さらには2100年の地球の様子も放送されていました。

今の生活様式を見直そうという意見もあります。生活様式を変えようといっても、昭和30年代に帰るわけにもいかず、きばらずに無理をせずにできる範囲でやってみようと改めて思った番組でした。

(藤井 義晴 記)